

## 浮き城のまち景観賞 これまでの受賞作品

参考資料

<h1 style="font-size: 2em; margin: 0;">H17</h1> <p style="margin: 5px 0;">～美しいまち づくり部門～</p>	作 品	【満る岡】 行田市城西 4-6-21
	講 評	<p>築 100 年以上の建物の骨組みを残しながら改築された老舗の料亭で、歴史や伝統へのさりげない気配りが感じられる意匠により、城下町に相応しい佇まいとなっている。</p> <p>建物西側の手入れのよく行き届いた檜の木が、陽の光や風をほどよく遮りながら、行田の西の玄関口としての顔に潤いを与えている。</p>
	表彰対象者	<p>【所有者】(有) 満る岡 代表取締役 早川 昇</p> <p>【設計者】(株)根岸俊雄都市建築事務所 代表取締役 根岸俊雄</p> <p>【施工者】大野建設(株) 代表取締役 大野年司</p>
	作 品 写 真	

浮き城のまち景観賞  
これまでの受賞作品

参考資料

H17 ～行田らしさ 部門～	作 品	【高澤邸（長野村村長屋敷）】 行田市長野 3-5-41
	講 評	江戸時代後期の名主屋敷の佇まいが、往時の面影を偲ばせている。 植栽が道に溢れ出た前庭の中央を進み、長年の風雪に耐えた門をくぐると、一瞬、まちの喧騒が耳から消える。そこは、鬱蒼と樹木の生い茂る邸内で、その一番奥に木造の母屋がひっそりと建つ。
	表彰対象者	【所有者】高澤英子
	作 品 写 真	

浮き城のまち景観賞  
これまでの受賞作品

参考資料

H18	作品	【栗原医院】行田市本丸 11-35
	講評	忍城の西北角、二階櫓跡の敷地に大正時代に建てられたハイカラな病院建築。 奥の増築部分は、既存部分に合わせて外壁を下見板で仕上げ、まちの歴史や景観へのさりげない気配りが感じられる。 さらに、建物とそれを取り巻く屋敷林とが一体となって独特な雰囲気醸し出し、一市民からの推薦理由にあるように、まさに「アニメのような世界」を想起させる。
	表彰対象者	【所有者】栗原 肇
	作品写真	

浮き城のまち景観賞  
これまでの受賞作品

参考資料

H18	作 品	【割役庄屋 表門、中門】行田市佐間 2-10-7
	講 評	忍城十万石お膝元の大名主の名残をとどめる門構えを持つ住宅。江戸後期に創られた冠木門形式の表門さらに中門をくぐると、そこは静寂な枯山水式庭園で、飛石・籠置き石が絶妙に配される。 こうした邸内の雰囲気は、手入れの行き届いた表門外の植栽などからも充分うかがい知ることができ、その存在がまちの景観の隠し味となっている。
	表彰対象者	【所有者】山崎 敬助
	作品写真	

浮き城のまち景観賞  
これまでの受賞作品

参考資料

H19	作品	【清酒 日本橋・浮城 醸造元 横田酒造株式会社】 行田市桜町 2-29-3
	講評	行田市の東北角、秩父鉄道・東行田駅の南側にある創業 201 年の歴史をもつ老舗酒蔵。 交通量の多い幹線道路から一本旧道に入り、道が緩やかな曲線を描く辺り、黒くどっしりとした重心の低い店構えがかつての城下町の佇まいを今に伝える。 その背後に控える大屋根の仕込み蔵の建物群ともども、まさに歴史と風土が醸造した景観であり、誰もが残したいと願う町並みである。
	表彰対象者	【所有者】横田 保良
	作品写真	

# 浮き城のまち景観賞 これまでの受賞作品

参考資料

H19

作 品	【和牛懐石 彩々亭】行田市佐間 1-11-22
講 評	行田市の代名詞ともいえる水城公園の東南に隣接する、水と緑に囲まれた町のオアシス的存在の懐石料理店。かつての行田の基幹産業であった足袋製造で築いた財をもとに昭和前期に建てられた洋館をレストランへと転用・保存した好事例で、地元では「足袋御殿」の名で親しまれている。 平成 19 年 9 月には、「国土の歴史的景観に寄与している」という登録基準により、国の登録有形文化財の登録を受けた。
表 彰 対 象 者	【所有者】 中部自動車販売株式会社 【施工者】 大野建設株式会社
作 品 写 真	